

# アホウドリ新繁殖地形成事業について (小笠原諸島聳島)

自然環境局野生生物課

平成23年7月12日

野生生物部会

# アホウドリの概要

- 分類:**ミズナギドリ目アホウドリ科キタアホウドリ属アホウドリ  
(学名; *Phoebastria albatrus*)
- ランク:**絶滅危惧II類(環境省レッドリスト2006)
- 繁殖地:**伊豆諸島鳥島、尖閣諸島

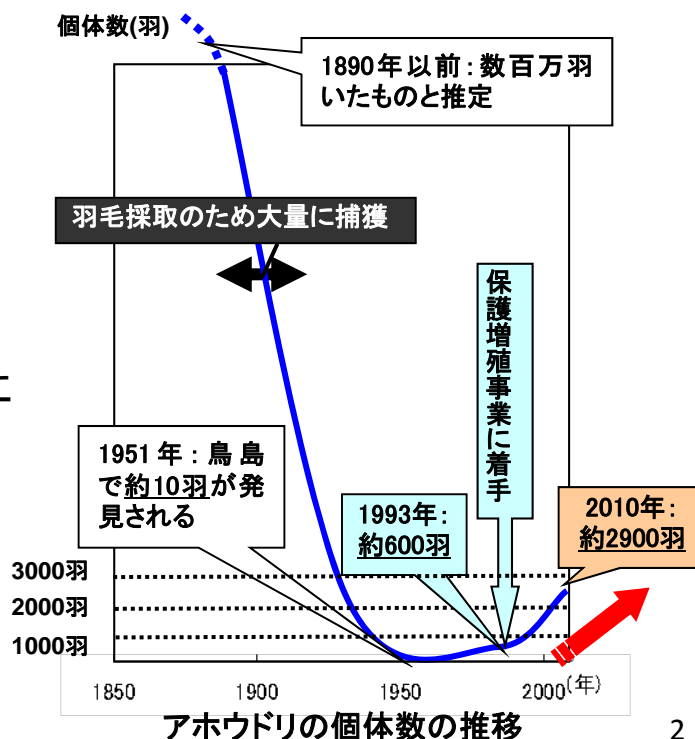
## ○形態及び生物学的特性:

- ・成熟個体で全長が84~94cm。翼開長210~230cm。
- ・成鳥: 胴部と翼の基部が白色、頭部は淡黄色、翼の先端部から後縁及び尾先端が黒褐色。
- ・ヒナ、若鳥(2歳頃まで): 全身暗褐色。
- ・繁殖活動は10月~翌年5月。7歳頃から繁殖に参加し、巣立った場所に戻ってきて繁殖を行う傾向が強い。



## ○減少要因と個体数の推移:

- ・1890年以前は推定数百万羽いたが、1890~1900年代に乱獲され、1949年の調査で絶滅宣言が出された。
- ・1951年に約10羽が鳥島で再発見された。
- ・1993年保護増殖事業開始時の推定個体数は約600羽。



むこじま

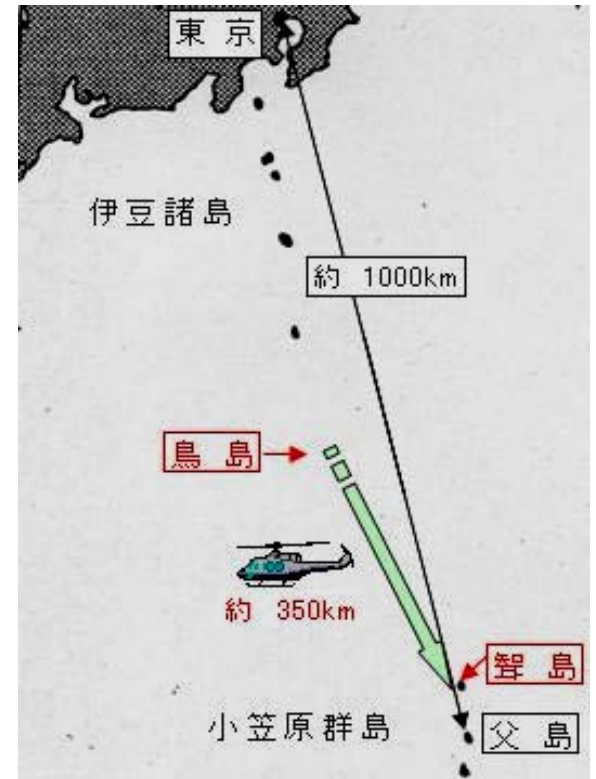
# 聟島における新繁殖地形成事業

## ■経緯:

- 平成5年からの保護増殖事業によって、鳥島における保護増殖事業は一定の成果を得て、個体数が増加。  
(2010年の繁殖期において、総個体数約2,600羽と推定)  
※アホウドリ保護増殖分科会委員、東邦大学長谷川教授の推定による。
- しかし、鳥島は火山島であり、噴火による生息地の破壊が懸念され、非火山島での新繁殖地の形成が必要と考えられた。
- これを受けて、小笠原諸島聟島に新たな繁殖地を形成するための事業が開始。

## ■新繁殖地形成事業の概要:

- 平成19年からの5カ年事業。(財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局等の支援を得て実施
- 従来の繁殖地である鳥島からヘリコプターでヒナを聟島に移送(毎年2月頃、35日齢程度)、巣立ちまでの約3ヶ月間人工飼育を行う。



【鳥島での輸送準備の様子】  
写真提供: 山階鳥類研究所



【聟島に到着したヘリ】

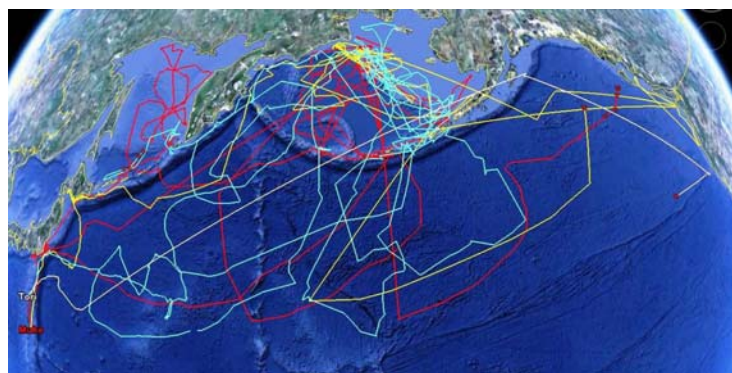


【聟島に移送されたヒナ】

# 聳島への移送状況と巣立ちヒナの帰還状況

## 【鳥島から聳島へのヒナの移送状況】

移送年	オス	メス	合計
平成20年	4羽	6羽	10羽
平成21年	10羽	5羽	15羽
平成22年	11羽	4羽	15羽
平成23年	8羽	7羽	15羽



計:55羽移送

【幼鳥衛星追跡結果】  
(平成21年5月～  
平成22年2月まで)

※アリューシャン列島や  
アメリカ西海岸へ飛来して  
いることが判明



【巣立ち後、海上で羽ばたきの練習  
をする(5月12日)】

写真提供: 山階鳥類研究所

●平成23年2月:聳島を巣立ったヒナの帰還を初めて確認

## 【平成23年に聳島への帰還が確認された巣立ちヒナー覧】

帰還確認日	性別	年齢	移送年
2月10日	オス	3歳	平成20年
2月25日	メス	3歳	平成20年
3月12日	メス	3歳	平成20年
3月17日	メス	3歳	平成20年
3月26日	オス	2歳	平成21年
4月1日	オス	3歳	平成20年
	メス	3歳	平成20年



【2月10日に帰還が確認された個体】

写真提供: 山階鳥類研究所

→7歳頃からの聳島での繁殖に期待